

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金 ニュースレター 2023

木々の緑が色濃くなる時期となりました。

さて、京都大学図書館機構では、貴重な古典籍資料をより身近なものとして活用していただけるよう、本学が所蔵する貴重資料の修復・デジタル化を進めています。

みなさまのおかげをもちまして、京都大学貴重資料デジタルアーカイブの公開資料が2.3万タイトル、200万画像を超えました。この間、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金により68タイトル 2239画像の貴重資料を公開することができ、学術研究の発展のために大いに活用されています。

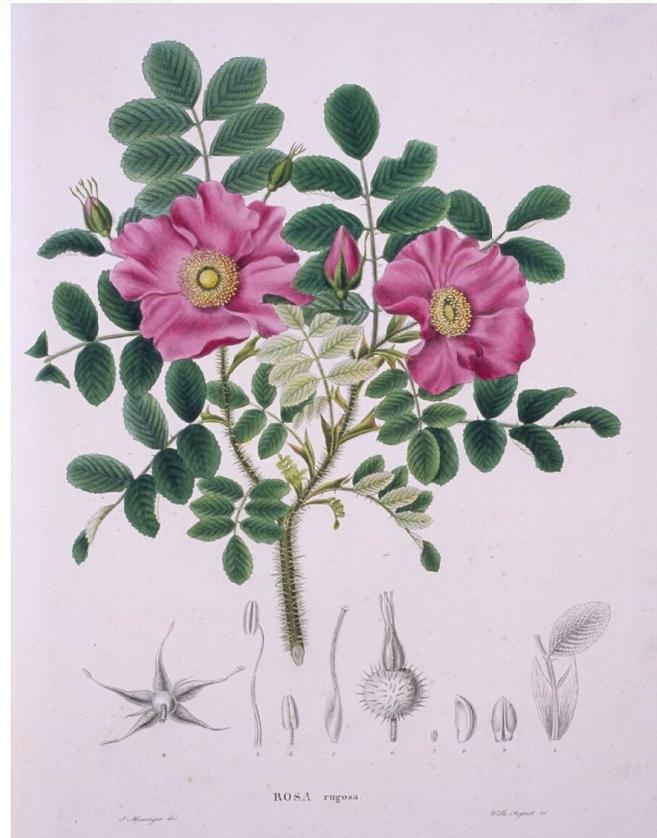
あたたかいご支援に感謝申し上げます。

今年も貴重な資料の公開をとおして、学術・文化の発展のために取り組んでまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1378633>



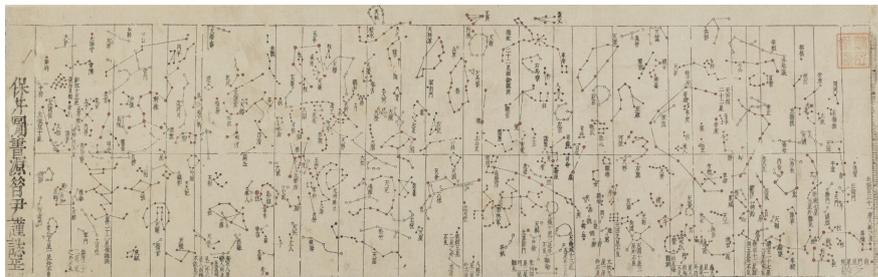
画像：『日本植物誌』（理学部植物学教室所蔵）より

東洋星図・地図5点を公開しました（2023/3/29）▼▶

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金により、文学研究科・理学研究科が所蔵する東洋星図・地図5点を公開しました。

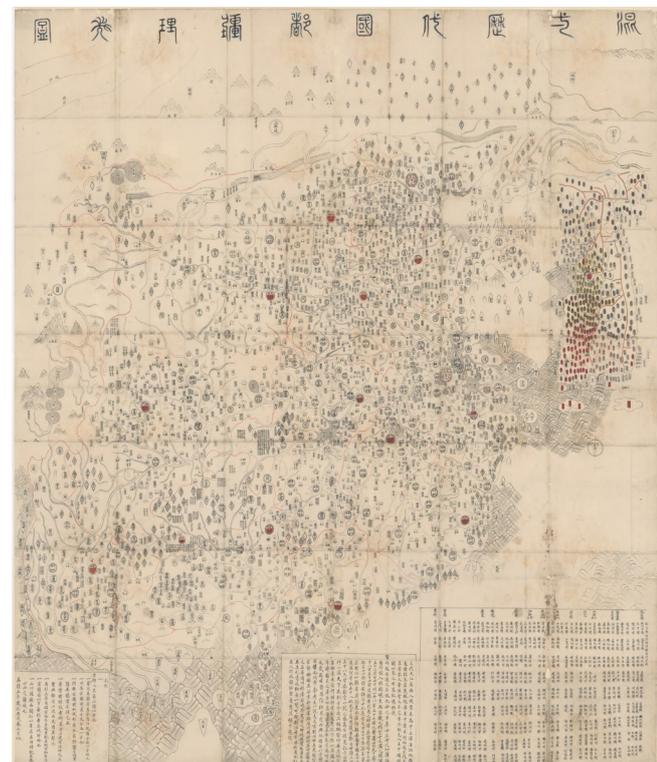


みなさまのご支援に厚く御礼申し上げます。



▲ 画像：『天文成象』（理学部植物学教室所蔵）より

▶ 画像：『混式歴代國都疆理之圖』（文学研究科所蔵）より



発行日： 2023年7月1日

発行： 京都大学図書館機構

企画編集： 京都大学附属図書館研究支援課研究支援第二掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-2612 / gazo660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ 本ニュースレターは、これまでに京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金にご寄附いただきました方にお送りしております。

2022年度の公開資料▼

2022年度に公開した資料の中から、担当者が興味深く思ったものをご紹介します。

○ その 1

総合博物館が所蔵する肖像画コレクション111点を公開しました。主に1910年代後半から1920年代末にかけて収集された人物肖像画のコレクションです。このコレクションには菅原道真や徳川家康など有名な歴史上の人物の肖像画が数多く含まれています。今回ご紹介するのは、江戸中後期の武道家・海防論者の平山子龍(通称:行蔵、1759-1828)の肖像画です。文政11年(1828)に文人画家の椿椿山(1801-1854)が子龍を見て描いた肖像画を天保11年(1840)に西村氷岩が模写したものです。本像の頭部は、向かって右向きの頭部を写した紙を裏返して左向きに変えて貼り付けられており、原本と顔の向きをあえて変更したかもしれないことが指摘されています。向かって右向きの頭部ははっきりと色濃く描かれていますが、左向きの頭部は紙の裏から見ることになるためか色合いが薄く見えます。何気なく見ると首が飛び出した構図のようで驚いてしまいますが、拡大してじっくり見ることでいろいろな発見ができる資料です。

(参考: 京都大学文学部博物館編 . 日本肖像画図録. 京都大学文学部博物館, 1991, p.111)



画像: 肖像画コレクション (総合博物館所蔵) より 「平山子龍像(模本)」

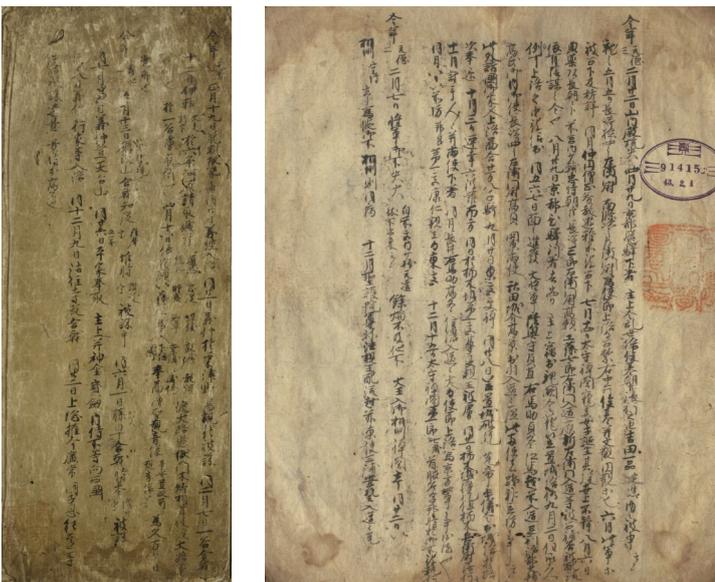


○ その 2

「鎌倉年代記」裏面をデジタル化・公開しました。「鎌倉年代記」は、鎌倉時代の年表形式の歴史書です。折本仕立てで、表面はすでに当サイトにて公開していましたが、今回新たに裏面をデジタル化・公開しました。資料の表面は八段に分けてケイ線を縦横に引き、主要人物の補任・略伝を記載し、年表風に整理されて

います。裏面には、表面に対応した位置に、その年の主要な出来事を年代記風に記されており、他の史料にはない記録が多数含まれています。

(参考: 熱田公.“鎌倉年代記.” 玉英記抄.(續史料大成 18), 臨川書店, 1967, p.vi-viii)



画像: 「鎌倉年代記」 (附属図書館所蔵) より
左2点: 裏面(年代記)/右2点: 表面(年表)



現在撮影中の現場から▼

附属図書館所蔵の「蔵経書院文庫」212タイトルを新たにデジタル化・公開しました。その他に、附属図書館所蔵の大惣本や、2021年度より寄贈を受けた「菊亭文庫」のデジタル化を2023年度も引き続き進めています。